

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの 10月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.200 2023.10

紹介内容 (9/1~9/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 石巻農改：パソコンによる農業簿記研修会を開催しました！
 - 大崎農改：第1回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました
 - 登米農改：農業における経営継承について学びました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 1
 - 大河原農改：農業大学校1年生の先進農業体験学習が始まります
 - 仙台農改：地域計画策定について、市町村等との意見交換を実施しました
 - 栗原農改：令和5年度リーダー研修会を開催しました
 - 亘理農改：農業大学校の先進農業体験学習開始式が開催されました
 - 美里農改：美里・大崎4Hクラブ・JA新みやぎみどりの青年部南郷支部合同研修会が開催されました
 - 気仙沼農改：農業大学校の先進農業体験学習の開始式が開催されました
 - 仙台農改：農業大学校先進農業体験学習の開始式が開催されました
 - 登米農改：女性農業者移動研修会を開催しました！
 - 登米農改：宮城県農業大学校の先進農業体験学習が始まりました
 - 美里農改：令和5年度美里地区先進農業体験学習開始式が開催されました
 - 気仙沼農改：郷土料理はっと講習会が開催されました
 - 大崎農改：みやぎ農業未来塾の視察研修を開催しました
 - 大崎農改：農大生の巡回指導をしました
 - 美里農改：美里地区みやぎ農業未来塾（先進農業経営体視察研修会）を開催しました
 - 気仙沼農改：気仙沼地区みやぎ農業未来塾を開催しました
 - 栗原農改：栗原農業者が互いの経営を学び合う視察研修会が開催されました
 - 登米農改：登米市4Hクラブが「登米おいしいもの市」で販売会を行いました！

- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 仙台農改：第5回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・ 8
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなりんご部会の第2回現地検討会が開催されました
 - 栗原農改：JA新みやぎ栗っこ地域にてたまねぎ栽培講習会が開催されました
 - 亘理農改：令和6年産いちご定植前研修会が開催されました
 - 栗原農改：栗原市果樹連絡協議会主催の視察研修会を開催しました
 - 亘理農改：第62回全国リンゴ研究大会宮城大会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- ④ 園芸産地の育成・強化支援（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 気仙沼農改：一季成り・四季成りいちご先進地視察研修会を開催しました
 - 仙台農改：第62回全国リンゴ研究大会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山イチゴ部会育苗管理指導会が行われました
 - 登米農改：ねぎの出荷査定会が開催されました
 - 大河原農改：いちごの花芽分化にむけて今後の育苗管理の徹底を！
 - 気仙沼農改：「南三陸大粒ぶどう協議会（仮称）」設立に向けた説明会が開催されました
 - 美里農改：北浦梨の直売所が開店しました！～「美里町北浦梨フェア2023」好評開催中！～
 - 仙台農改：利府町の名産品「梨」の出荷・販売が始まりました
 - 栗原農改：JA新みやぎ栗っこ地域にてそらまめ栽培講習会が開催されました
 - 亘理農改：カーネーションIPM実証の視察が行われました
 - 美里農改：目指せ！！園芸導入でパワーアップ！「水田を活用した露地野菜導入セミナー」を開催しました
 - 栗原農改：第2回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
 - 亘理農改：抑制トマト現地指導会が開催されました
 - 大河原農改：仙南地区で、RTKシステムを活用した「たまねぎ直播」実演会を開催！
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 大崎農改：JA加美よつば主催の大豆現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：大豆の生育調査を行いました
 - 美里農改：子実用とうもろこしの収穫作業が始まりました
 - 亘理農改：子実用とうもろこし収穫実演会を開催しました
 - 気仙沼農改：飼料作物展示ほ（稲発酵粗飼料用品種）の収量調査を実施しました
 - 美里農改：第1回美里地域農業普及活動検討会の開催

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - 大崎農改：水稻採種ほ場審査（第二期）を実施しました
 - 美里農改：宮城県総合畜産共進会「肉用牛の部」壮行会が開催されました
 - 登米農改：第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
 - 登米農改：登米市新米試食会が開催されました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 気仙沼農改：「蔵の華」刈取適期確認研修会を開催しました
 - 亘理農改：地域計画に向けた地区協議が始まりました
 - 大崎農改：古試参観デーに参加しました
 - 気仙沼農改：第1回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - 石巻農改：グリーンな栽培体系への転換サポート現地検討会を開催しました！
- ③ 大規模自然災害等からの復旧・復興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
 - 大河原農改：令和元年東日本台風の被災地区で、集落営農法人が設立！

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○パソコンによる農業簿記研修会を開催しました！ 令和5年9月5日 石巻農業改良普及センター



令和5年8月18日（金）に、管内の若手農業者や女性農業者等の経営管理能力の向上を目指して、パソコンによる農業簿記研修会を開催しました。

今回は、管内の農業者5人が参加し、農業簿記ソフトの基本操作、インボイス制度への対応、記帳演習等を行いました。

講師のソリマチ株式会社門田リーダーのわかりやすい説明により、初期設定の期首残高登録や部門設定等について全員が操作できるようになり、今後は日々の伝票入力で会計管理がしっかり行われることが期待されました。

普及センターでは、今後も決算処理の研修会開催など経営に関する支援を行ってまいります。

○第1回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました 令和5年9月20日 大崎農業改良普及センター



9月12日に第1回大崎地域農業改良普及活動検討会を開催しました。普及活動検討会は、当所の活動が農業者や地域住民に理解され、効率的な普及指導活

動を推進するために外部委員に御意見をお伺いするものです。

今年度は、プロジェクト課題「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」で支援している色麻町のねぎ生産法人のほ場及びねぎ収穫調整施設において現地検討会を実施し、委員からは排水対策や混合堆肥複合肥料の実証への支援等の取組を評価していただきました。

総合検討では、現在取り組んでいる4つのプロジェクト課題において、対象者を取り巻く地域の方々や関係機関と連携して取り組む必要性や、普及センターの技術支援やコーディネート力への期待といった御意見がありました。いただいた御意見を今後の普及活動に活かしていきます。

○農業における経営継承について学びました 令和5年9月21日 登米農業改良普及センター



「自分の経営を次の世代にどう引き継ぐか、しかし何から始めればいいのか・・・」と考えている経営者は多いと思います。

そこで8月24日（木）、登米合同庁舎において「農業における経営継承研修会」を開催しました。

当日は管内の農業法人及び関係機関約30人が参加し、事業承継士の資格を持つ株式会社ケミストリー代表 村上一幸氏から、経営継承の課題と対応、進め方について講演をいただきました。

講師からは「負債等のマイナスの情報も後継者に伝えることが大切」、「ただ引き継ぐのではなく、経営の課題を継承計画に盛り込み対応することが重要」、「経営継承は当事者だけでなく家族を巻き込んだ話し合いが必要」などのポイントの他、土地などの財産の継承方法、第三者に経営を引き継いだ実例についても紹介していただきました。参加者はメモを取って熱心に受講し、休憩時には直接質問をする参加者もあり、経営継承に対する関心の高さが伺えました。

農業改良普及センターでは、今後も関係機関・団体と連携し、経営継承支援を行ってまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○農業大学校1年生の先進農業体験学習が始まります 令和5年9月5日 大河原農業改良普及センター

宮城県農業大学校では9月4日から10月6日までの33日間にわたり、先進農業体験学習を実施します。本学習は1年生が、先進的な農業経営を実践している農業者のもとで、生産技術や経営管理を研修し、将



来における就農等の指針とすることを目的に行われます。

当普及センター管内では2名の学生を角田市内の農業法人で受け入れることとなりました。

初日の9月4日には開始式が県大河原合同庁舎で行われ、学生と法人の代表者が出席しました。学生は自己紹介の後に、体験学習に向けての抱負を述べました。

「生産から販売までの流れを勉強し、マーケティングで工夫しているところを学びたい。」という希望や「法人が地域に根ざして営農している点についてしっかりと研修したい。」といった決意表明がなされ、学生を受け入れる法人からは「体調に留意して研修に励んでほしい。」と励ましの言葉がかけられました。

普及センターでは、今後巡回訪問等を行い、学生の学習が円滑に進むようサポートしてまいります。

○地域計画策定について、市町村等との意見交換を実施しました 令和5年9月7日 仙台農業改良普及センター



8月21日から31日にかけて、地域計画策定推進担当職員、農地中間管理機構コーディネーター及び市町村担当普及指導員の3人がチームとなり、市町村に出向き意見交換を実施しました。

初めに、7月末時点で市町村から提出された工程表に基づき、進捗状況を確認した後、推進体制の整備や農業者等への周知状況、目標地図の作成方法などについて聞き取りを行いました。

殆どの市町村が、工程表に基づき協議の場の設置に係る調整を終えているほか、出し手・受け手の意向調査に着手しているようです。

目標地図のベースとなる現況地図等は、農業委員会が主体となり農業委員や農地利用最適化推進員の協力を得ながら作成に取り掛かっているようです。

一方、一部の町では、農業者数や耕地面積が大きい地域があり、協議の場の細分化や進め方等をどのようにしたら良いか悩みを抱えているところもありました。

チーム員からは、他市町村の参考となる事例を紹

介するなど、少しでも円滑に推進できるようアドバイスを行いました。

市町村の取組は、まだスタートを切ったばかりの様子でしたが、普及センターとしても、定期的に巡回し進捗状況を把握するとともに、優良事例の情報提供など適宜アドバイスを行いながら、市町村の地域計画策定を支援してまいります。

○令和5年度リーダー研修会を開催しました 令和5年9月7日 栗原農業改良普及センター



令和5年8月30日、大和町の了美ヴィンヤード&ワイナリーで、令和5年度くりはら女性農業者キャリアアップ講座「リーダー研修会」を開催し、管内女性農業者が11名参加しました。

講義では、「株式会社みらいファームやまとの取組」と題して、取締役の早坂美代子氏に、異業種から農業を展開し、了美ヴィンヤード&ワイナリーをオープンするに至った経緯や、ブドウ栽培の難しさについてお話いただきました。その後、同社で栽培・加工を行っている黒にんにくの試食もあり、地元の食材が使われた料理に舌鼓を打ちながら交流会を行いました。ワイナリー見学では、ほ場を見ながらブドウがワインになるまでのお話をいただきました。最後に、美代子氏の夫で代表取締役の了悦氏にもお越しいただき、家族での経営に関する役割分担についてお話いただきました。

参加者からは、同社の事業に関することや、ブドウの栽培について等、様々な質問や意見が飛び交い、活き活きと輝いて活躍している女性農業者のお話は、参加者にとって良い刺激となったようでした。

普及センターでは、今後も研修会等を通じ、女性農業者の資質向上やネットワークの形成を支援していきます。

○農業大学校の先進農業体験学習開始式が開催
されました
令和5年9月7日
巨理農業改良普及センター



9月4日(月)に巨理農業改良普及センターにおいて、農業大学校が主催する先進農業体験学習の開始式が開催されました。本学習は、農業大学校の1年生が、先進的な農業経営を実践されている農業者のもとで、33日間、農業技術や経営を学習するものです。

当日は農業大学校生12人と、受入農家の12経営体が出席されました。学生からは体験学習に向けて、「労務管理を学びたい」、「コミュニケーションをよくとって充実した体験学習にしたい」等の目標を発表し、強い意気込みを感じることができました。また、受入農家からは、「一緒に33日間頑張りましょう」とあたたかい声をいただきました。

普及センターでは、本体験学習が農業大学校生にとって有意義な時間となるよう、巡回等とおして支援していきます。



今回は、加美町のタカノ産業株式会社と漬物やキムチなどの加工製造している株式会社ピクルスコーポレーション宮城ファクトリー、大崎市の合名会社寒梅酒造の直売店の3か所を視察しました。

はじめに、タカノ産業株式会社の高橋代表取締役社長からは、ねぎの生産状況や調製施設の概要、実際の業務、ほ場管理について説明いただきました。

次に、株式会社ピクルスコーポレーション宮城ファクトリーの島山工場長から、会社の事業概要や取組方針、製造加工の概要等を説明いただいた後、工場内部を見学しました。

最後に、合名会社寒梅酒造を訪問し、日本酒の直売所のほか、酒かすや米麴を使った洋菓子などを販売している“おやつ工房ハルリッカ”を視察しました。

今回の研修会は、3機関から合わせて17人が参加し、質問や情報交換が活発に行われ、大変有意義な研修となりました。

普及センターでは、今後も地域農村青年の技術研鑽や情報交流を支援し、地域農業の担い手の確保及び育成に取り組んでいきます。

○美里・大崎4Hクラブ・JA新みやぎみどりの青年
部南郷支部合同研修会が開催されました
令和5年9月8日
美里農業改良普及センター



美里4Hクラブは、美里農業改良普及センター管内の若手農業者から構成され、クラブ員同士の技術研鑽や情報交流を目的に様々な活動に取り組んでいます。その活動の一環として、大崎4Hクラブ及びJA新みやぎみどりの青年部南郷支部と視察研修会を開催しました。

○農業大学校の先進農業体験学習の開始式が開催
されました
令和5年9月8日
気仙沼農業改良普及センター



令和5年9月4日から33日間の農業大学校先進農業体験学習が開始されるにあたり、その初日に県内各農業改良普及センターにおいて農大生、受入農家、関係機関による開始式が開催されました。この体験学習は、農業大学校の1年生全員が実習するもので、当地区では畜産学部の学生1名が式に臨みました。

式では、農業改良普及センター所長から学生への激励と受入農家への謝意を込めて挨拶があり、その後、出席者の自己紹介が行われました。

挨拶の中で学生からは体験学習で削蹄師及び人工授精士の技術を習得したいと発表があり、学生の意欲が受入農家や関係者に伝わってきました。受入農家からは、学生の期待に応じてあげたいと頼もしい回答がありました。

普及センターでは、充実した体験学習となるよう農業大学校と連携して学生を支援していく予定です。

○農業大学校先進農業体験学習の開始式が開催されました
令和5年9月11日
仙台農業改良普及センター



宮城県農業大学校の1年生10名が、9月4日(月)から10月6日(金)までの33日間、仙台農業改良普及センター管内の農業者10名のもとで先進農業体験学習を実施するのにあたり、9月4日に宮城県仙台合同庁舎会議室において開始式が行われ、学生と受け入れる農業者の方が参加しました。

学生からは「学校で学んでいない作物の栽培方法について学びたい」「実家が農家ではないので農家での生活について学びたい」「作業スケジュールの立て方を知りたい」など学習の目標・目的など、1人ずつ決意表明がありました。

受入農家からは、「自分も新規参入者だった」「人生の糧となるよう何でも聞いてほしい」「わからないことばかりかもしれないががんばってほしい」など、温かい言葉が学生に送られました。

先進農業体験学習の終了後は、たくましく成長した姿が見られることを期待しています。

普及センターでは、今後ますます充実した学生生活を送ることができるよう願うとともに、卒業後の就農を支援していきます。

○女性農業者移動研修会を開催しました！
令和5年9月13日
登米農業改良普及センター

令和5年9月1日(金)に女性農業者移動研修会を開催し、登米地区農村生活研究グループ連絡協議会、アグリレディーズネットとめ、登米市農産加工者連絡協議会に所属する女性農業者17人が参加しました。



1か所目の視察地のJRフルーツパーク仙台あらはまでは、なし及びぶどうの果物摘み取り体験を行いました。東日本大震災後、防災集団移転跡地を活用して開園した農場では、V字ジョイント栽培を採用しており、参加者は栽培方法について様々な質問をしていました。その後、アクアイグニス仙台でマルシェ等の農業関係施設を見学した後、もろやファームキッチンにてオーナーから自家農園と農家レストランのこだわりについて講話いただきながら、自家野菜を使った料理を堪能しました。

参加者からは「仙台圏における消費者への商品提供の仕方が勉強になった」、「直売所のディスプレイや加工品を見学できアイデアが浮かんだ」、「身近な野菜の調理方法について参考になった」との感想が聞かれました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者を支援していきます。

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習が始まりました
令和5年9月13日
登米農業改良普及センター



宮城県農業大学校の先進農業体験学習は、農業大学校の1年生が、直接、先進的な農業者の経営環境の中で農業技術や農業経営のノウハウを学ぶとともに、農村生活を体験するものです。本年度、管内では4人の学生を受け入れることとなり、令和5年9月4日に開始式が実施されました。

集合時には研修開始を控えて緊張した表情だった学生達でしたが、自分自身の研修への期待や意気込みを表明し、経験豊かな受け入れ農家からの厳しくも優しい助言の言葉を聞くことにより、研修への意欲が徐々に高まっていく様子でした。

体験学習は、この後33日間、10月6日まで続く長丁場となり、受け入れ農家の負担も大きくなることから、普及センターでも農業大学の巡回指導と連携しながら支援していくこととしています。

今年の学生の多くは親の農業経営への参画を希望しているとのことであり、この体験学習で良い経験や人脈を得て、各々の将来の目標に向かって邁進して欲しいと願います。

○令和5年度美里地区先進農業体験学習開始式が 開催されました 令和5年9月14日 美里農業改良普及センター



令和5年9月4日(月)に美里農業改良普及センターで宮城県農業大学校先進農業体験学習に臨む1年生と受入農家が参集し、研修の開始式が開催されました。

はじめに、所長から「百聞は一見に如かず、体験学習で受入農家の生産技術や経営管理等を学び、将来の進路選択や人生経験に役立ててほしい」と励ましの挨拶がありました。

次に、農大生から自己紹介と研修先で学びたいことを話し、受入農家からは研修内容について話していただきました。

農業大学校職員からは、体験学習の諸注意として受入農家の指示に従い、学習日誌を作ることや巡回指導による学習状況の確認など今後のスケジュールの説明がありました。

開始式終了後、農大生は受入農家とともに33日間の先進農業体験学習へ向かいました。普及センターでは農業大学校と連携して体験学習をサポートしてまいります。

○郷土料理はっと講習会が開催されました 令和5年9月15日 気仙沼農業改良普及センター

郷土料理である「はっと汁」は宮城県北の家庭でよく食卓にのぼる料理ですが、気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の会員から「はっとを薄く綺麗にのぼす技術を修得したい」という声を受けて、令和5年9月12日、食文化の継承を目的に、地区連主催の「はっと講習会」が開催されました。当日は、会員24人に、市町担当者等関係機関も加わり総勢30人の参加がありました。



講習会では、はっとの生地づくりから始まり、小麦粉に水を加える加減や固さを確認しました。また、講師がはっとの生地を薄くのばし、一口大にちぎって鍋に入れていく場面では、会員の皆さんが、講師の手の動きや指使いを習得しようと食い入るように見ていました。

実食ではお互いに料理の感想を言い合い、その後の情報交換では、会員から各家庭で使う具材や味付け、はっとを次世代に継承するための取組についても意見が交わされました。

はっとは、会員皆さんが作り慣れている料理ですが、今回の講習会では、はっと生地の作り方や小麦粉の種類、ゆで方など改めて学ぶことが多く、とても有意義な講習会となったようでした。

○みやぎ農業未来塾の視察研修を開催しました 令和5年9月20日 大崎農業改良普及センター



大崎管内で先進農業体験学習を実施する農業大学校学生等を対象に、令和5年9月8日みやぎ農業未来塾入門講座を開催しました。今回の講座は、加美町の農業法人経営者や新規就農者から直接話を伺い、農業を職業にするきっかけづくりと、大崎地域の農業への理解を深めることを目的とし、農業大学校学生3名と大崎地区4Hクラブ員4名が参加しました。

最初に、加美町の農家民宿「花袋天王」でお昼ご飯を食べ、「花袋天王」の加藤重子氏から農村の地域資源を活用して新たな付加価値を生み出す取り組みについてお話をいただきました。次に、加美町の新規就農者である松本祥氏、結依氏から、ぶどう栽培ほ場や多肉植物栽培ハウスを見ながら、松本夫妻の農業の取組を紹介していただきました。最後に、株式会社原グリーンサービス 代表取締役 相澤磨美氏から農業法人の取組について説明いただきました。

参加者は、学校生活ではなかなか話を伺う機会がない、ベテラン農家の経験談や就農前後の苦労話、法人経営のノウハウなど多岐にわたる話を直接聞くことができ、学ぶことが多い有意義な講座となったようでした。

○農大生の巡回指導をしました
令和5年9月20日
大崎農業改良普及センター



令和5年9月13日(水)、大崎農業改良普及センター管内で先進農業体験学習をしている宮城県農業大学校生の巡回指導を行いました。管内で体験学習をしている学生は3人で、農業生産法人や個別経営の農家が学生を受け入れてくださっています。

巡回指導では、農大の職員と一緒に作業の様子や日誌の記帳状況を確認するとともに、受け入れ農家と学生から感想を聞き取りしました。

学生からは、「ご飯がおいしく、夜はぐっすり眠れ

て健康的な生活ができています」「最初は緊張したけど、従業員の方々と馴染めて楽しい」等感想が聞かれました。農大の職員も、学校では見られない活き活きした表情で学生の頑張っている様子が確認できたと話していました。

農大の先進農業体験学習は、10月6日(金)まで行われます。

○美里地区みやぎ農業未来塾(先進農業経営体視察研修会)を開催しました
令和5年9月22日
美里農業改良普及センター



新規就農者や農大先進農業体験学習中の学生を対象に、農業技術や経営管理の習得を図るため、令和5年9月11日(月)に美里地区みやぎ農業未来塾を開催し、美里4Hクラブの活動を紹介と先進農業経営体への視察研修を実施しました。

はじめに、美里町の農家レストラン「野の風」で昼食を取りながら、美里4Hクラブ会長から、先進事例研修や情報交換などを行い、農業経営技術の習得と仲間づくりを展開している「美里4Hクラブ」の活動について紹介がありました。

昼食後は、先進的な農業経営体の視察見学を行い、最初に、平成18年に法人化した大崎市鹿島台の有限会社エイト農産の代表から設備投資を抑え、水稲、麦、大豆の2年3作のブロックローテーションとさつまいも等の野菜栽培についてお話を伺いました。

次に、鹿島台の黒毛和種肥育牛農家から牛の快適性と仕事のし易さ、低コストを心掛けた木造牛舎で、血統や病気に注意し、飼料高騰など経営の厳しさについてお話を聞きました。

最後に、平成26年に集落営農組合から法人化した

美里町の農事組合法人みらいす青生の代表から計画的に施設や機械を導入整備し、水稻、麦、大豆と野菜の大規模経営する取組みを説明していただきました。夏は地下水位制御方式を活用したトウモロコシなどの野菜栽培と冬は大豆の選別調製を組み合わせた周年就労を実現し、自動操舵の農業機械、ドローン、圃場管理システム等のスマート農業技術を活用して地域農業の発展を目指しているとのお話しに参加者は興味を持っていました。

普及センターでは、今後も、新規就農者等を対象に、先進的な農業経営体の経営戦略や美里4Hクラブの活動などを紹介し、農業後継者の確保、育成を行っていきます。

**○気仙沼地区みやぎ農業未来塾を開催しました
令和5年9月22日
気仙沼農業改良普及センター**



令和5年9月6日に気仙沼地区みやぎ農業未来塾を開催しました。今回は南三陸町で先進農業体験学習を行っている農業大学の1年生を対象に、管内の若手農家の取組や農業経営の実際を把握し、就農意欲の醸成や今後の進路の参考とすることを目的に、気仙沼地区4Hクラブ員との交流会を行いました。予定していた4Hクラブ員のほ場視察は雨天で中止となりましたが、その分、クラブ員と学生とで充実した情報交換が行われました。クラブ員からは、農業大学校在学時代の経験談、先進体験学習や学校生活、就農時の助言、現在の取組等についての話があり、「農業大学校での人脈が就農後も必ず役立つので、人との繋がりを大事にしてほしい」との言葉が学生に贈られました。学生も自身の目標や学生生活についてクラブ員に相談する様子が見られ、充実した交流会となりました。

**○栗原農業士会員が互いの経営を学び合う視察研修会が開催されました
令和5年9月27日
栗原農業改良普及センター**



令和5年9月7日(木)に、栗原農業士会(会長:石川輝芳、会員19人)による令和5年度栗原農業士会経営状況相互視察研修会が開催されました。本研修会は、会員の農業経営発展に役立てるため、お互いの経営状況を視察し合うもので、今回は令和5年度新たに青年農業士に認定された(農)iファームの酒井宏和さん(志波姫)と佐々木慶英さん(高清水)の経営を視察しました。

当日は、栗原市内で先進農業体験学習中の宮城県農業大学校生3名も参加し、交流を図ることができました。はじめに、訪問した(農)iファームでは、大規模土地利用型経営の話を伺うとともに、機械装備を見学しました。ドローン、ロボットトラクターなどITを活用した新しい農業の姿に参加者は驚いていました。

次に、訪問した佐々木慶英氏は、30haの水稻と20aの施設いちご施設を営む大規模複合経営農家です。平成24年に宮城県農業大学校卒業と同時にいちご経営を開始し、昨年、父の水稻経営を継承しました。大規模経営のやりがいと苦勞を同時に聞くことができ、農業士、研修生とも大変参考になったようです。

**○登米市4Hクラブが「登米おいしいもの市」で販売会を行いました！
令和5年9月29日
登米農業改良普及センター**



令和5年9月27日(水)に仙台市勾当台公園で「登米おいしいもの市」が開催され、登米市4Hクラブも参加し、農産物の販売を行いました。「耕作放棄地プロジェクト」でクラブ員が栽培したばれいしょのほか、先輩クラブ員が栽培したえだまめやピーマンなどの野菜等11品目を販売しました。当日はあいにくの雨の中での販売となりましたが、消費者との交流を通じて登米市4Hクラブの活動をPRする良い機会となりました。

当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

**○第5回水稻乾田直播栽培勉強会を開催しました
令和5年9月19日
仙台農業改良普及センター**

乾田直播栽培技術を導入し水稻の収量向上を目指す生産者を支援するため、これまで月1回、仙台市若林区のほ場を会場に勉強会を開催してきました。5回目となる今回は、乾田直播栽培の県内先進地である、石巻市の(農)たてファーム・和を会場に勉強会



を開催し、農業者や農協職員など 21 名が参加しました。
 (農) たてファーム・和は、出芽状況や雑草の葉齢、追肥時期の葉色等ほ場の状態をよく観察して、各作業の有無やタイミングを決定する等しており、その技術力により成果をあげている法人です。今回の勉強会では同法人役員の方から、施設や現地ほ場の案内とともに農業機械の使い分けや設定、耕種概要等の説明をしていただきました。また JA 石巻や石巻普及センターからは石巻管内の今年の生育状況、当普及センターから仙台管内の生育状況を説明しました。
 質疑応答では、フラッシングの方法や、播種量、堆肥の活用、病害虫の発生への対応等、活発に意見交換がなされ、有意義な勉強会となりました。令和 5 年から乾田直播栽培に取り組んでいる法人の参加もあり、今後の技術力の向上と面積拡大が期待されます。
 普及センターでは、今後も水稻乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA 新みやぎあさひなりんご部会の第 2 回現地検討会が開催されました 令和 5 年 9 月 1 日 仙台農業改良普及センター



JA 新みやぎあさひなりんご部会の今年 2 回目となる現地検討会が 8 月 21 日に開催されました。
 早生種の収穫が間もなく始まることから、各園地を巡回し、収穫のタイミングがいつになるのかなどを確認し合いました。収穫については、着色が進んでおらず、収穫適期まであと 10 日前後ではないかと推察されました。また、一部園地で病害虫の発生が見られたことから、これからの防除について指導しました。生物農薬を活用してダニ類を防除している生産者もあり、盛んに情報交換が行われていました。
 大変暑い中での現地検討会となりましたが、普及センターでは今後も情報提供や技術指導を行い、美味しいりんごの安定生産を支援していきます。

○JA 新みやぎ栗っこ地域にてたまねぎ栽培講習会が開催されました 令和 5 年 9 月 4 日 栗原農業改良普及センター



令和 5 年 8 月 23 日、JA 新みやぎ志波姫支店において、たまねぎ栽培講習会が行われ、普及センターは講師として出席しました。この講習会には、管内 2 法人が出席しました。
 初めに、渡辺採種場の担当者より播種から収穫までの一連の作業について丁寧に解説いただきました。育苗に取り組む参加者もいるため、現在の高温期における育苗管理の注意点や定植までの作業について、生産者の意見も踏まえながら重点的にお話いただきました。
 普及センターからはたまねぎで注意すべき病害虫について解説を行いました。特に減収の要因となりやすいべと病について、連作するほ場では年内及び年明け以降に散布体系を組んで防除するよう呼びかけました。また、県内のたまねぎ栽培で使用事例の多い農薬を資料にまとめて配布しました。今年度はマルチ無しの移植栽培や、直播栽培に取り組む生産者がいるため、収量確保に向けて除草剤による体系防除を確実に行う必要があることを説明しました。
 参加者からは、育苗管理に関することや資材の選定等について質問があり、講師が都度回答しました。管内のたまねぎ生産面積は近年増加傾向であり、普及センターでは引き続き生産拡大に向けて支援していきます。

○令和 6 年産いちご定植前研修会が開催されました 令和 5 年 9 月 4 日 亶理農業改良普及センター



9 月も間近に迫り、いちごの定植が始まることから、8 月 24 日 (木) JA 新みやぎ亶理主催の定植前研修会が開催され、いちご生産者 34 名が参加しました。研修会では、栽培面での基本事項について普及センターから、病害虫対策について農業・園芸研究所から、天敵等の資材等についてメーカーから、それぞれの要点について説明をしました。

今年は7月中旬以降高温で推移していることもあり、研修会では特に注意して準備した方が良い培地の残肥確認や、定植後の管理作業、病虫害防除についての話がありました。参加者らはこれからの定植に向けて、苗、本ぼ定植に向けての準備内容を確認しました。当普及センター管内の定植作業は9月10日頃をピークに、下旬頃まで続きます。

普及センターではこれからも関係機関と協力して、いちごの安定生産に向けて支援してまいります。

○栗原市果樹連絡協議会主催の視察研修会を開催しました
令和5年9月4日
栗原農業改良普及センター



令和5年8月29日(火)、栗原市果樹連絡協議会会員等15名が参加し、白石市のりんご生産者の栽培事例について視察研修を実施しました。

視察先の生産者とは、前の週に実施された第62回全国リンゴ研究大会宮城県大会で、当管内から参加した生産者と同室だったとのことで、終始和気あいあいとした雰囲気の中で研修を実施することができました。

始めに園地の概要と主な栽培管理の状況について説明をいただきました。父親の代からりんご栽培を始め、現在も生産の主力は父親が植栽した普通樹とのことでしたが、一部はわい化栽培へ改植するとともに、後継者が就農してからは、わい化栽培で規模拡大を図っているとのことでした。

参加者は、栽培管理技術のほか、販売方法等についても熱心に意見交換を行っており、大変有意義な視察研修となりました。

○第62回全国リンゴ研究大会宮城大会が開催されました
令和5年9月5日
亶理農業改良普及センター



令和5年8月24日から25日の2日間、第62回全国リンゴ研究大会宮城大会が開催されました。

25日の現地視察では、管内の結城果樹園(亶理町)が視察園地の一つとして選ばれました。

当日は、宮城県内外のりんご生産者等約230人が結城果樹園を視察しました。

視察冒頭、山田周伸亶理町長と結城果樹園3代目の結城翔太氏が挨拶を行い、大会開催を歓迎しました。

参加者から栽培管理や販売方法等について多くの質問があり、結城翔太氏が丁寧に回答していました。

当普及センターでは、今後も管内りんご産地の支援を行ってまいります。

○一季成り・四季成りいちご先進地視察研修会を開催しました
令和5年9月5日
気仙沼農業改良普及センター



令和5年8月29日、管内のいちご生産振興のため、先進法人である株式会社和莓(なごみいちご、亶理町)の視察研修会を開催しました。

研修会では、四季成りいちごの栽培ほ場や一季成りいちごの育苗施設、調製施設を見学するとともに、栽培管理の工夫や各種品種の特性等について、同社代表取締役の平間克巳氏から御説明いただきました。

四季成りいちごを栽培する上で課題となる夏季の高温対策や天敵のカブリダニと化学農薬を組合せたアザミウマ対策、各品種の特性、使用している資材、一季成りいちごの採苗施設や花芽分化の方法、選果機を導入した調製施設に加え、収穫に応じた人員配置、販路についてもお話を伺うことができ、技術、経

営両面で貴重な情報を得ることができました。

特に、花芽を維持するための育苗、EC の管理や、蒸散を促進させるバイオスティミュラント資材については、さらなる収量向上に向け、関心を持つ参加者が多く、普及センターでも、管内で知見が活用できるように検討を行っていきます。

引き続き生産者同士の交流を行うことについても御快諾をいただき、管内のいちご生産振興につなげていきたいと思えます。

○第62回全国リンゴ研究大会が開催されました 令和5年9月7日 仙台農業改良普及センター



令和5年8月24日及び25日に第62回全国リンゴ大会宮城大会が開催されました。全国リンゴ研究大会は、各産地を会場として開催されており、全国の産地同士が交流を深め、技術力向上等により次世代につなぐリンゴづくりを目指しています。本大会は、管内の果樹生産者の協力を得ながら16年ぶりに宮城県で開催され、県内外から353名の生産者や関係者が一堂に会しました。

25日には、管内のJRフルーツパークあらはま(仙台ターミナルビル株式会社)とせんだい農業園芸センターの2か所を視察会場に、当普及センター職員が園内説明や質疑応答に対応しながら、県内で取り組みの広がりつつあるジョイント栽培技術等について技術交流を図るとともに、本県の果樹生産を通じた震災復興の取組や、県内主産地の生産の様子を広く紹介することができました。本大会の取組を通じて、今後も果樹生産振興に支援を行ってまいります。

○JA みやぎ登米米山イチゴ部会育苗管理指導会 が行われました 令和5年9月11日 登米農業改良普及センター



令和5年8月22日、JAみやぎ登米米山イチゴ部会で育苗管理指導会が開催され、生産者とその後継者計9人が参加しました。

今年は例年に比べ気温がかなり高かったことから、普及センターからは高温への対処法や障害の発生原因を解説しました。また、高温により例年と異なる生育であることから、普及センターで行っている花芽検鏡を活用し、適期定植を行うよう呼びかけました。生産者は、自身が行っている作業者の高温対策や肥培管理などについて、盛んに意見交換を行っていました。

普及センターでは、今後も美味しい米山産のいちご生産を支援してまいります。

○ねぎの出荷査定会が開催されました 令和5年9月11日 登米農業改良普及センター



令和5年8月22日に、JAみやぎ登米ねぎ部会の出荷査定会が米山町の南部園芸センターで開催され、ねぎ部会員、市場担当者、関係機関等30名が参加しました。

出荷査定会では、市場関係者からねぎの出荷規格や販売状況、出荷時の留意点について、JA担当者から統一ボールや箱詰めの注意点について説明があり、活発な意見交換が行われました。また、普及センターからはネダニの発生に関する情報提供と熱中症予防に対する注意喚起を行いました。

普及センターでは、今後もねぎの生産性向上と安定生産に向けた支援を行ってまいります。

○いちごの花芽分化にむけて今後の育苗管理の徹底を！

令和5年9月13日

大河原農業改良普及センター



令和5年8月29日、JAみやぎ仙南蔵王地区いちご部会（部会員11戸）の育苗現地検討会が開催されました。

今年の酷暑で育苗管理が難しい中、定植に向けた苗の管理や花芽分化について参加者の育苗ハウスを巡回しながら検討しました。

好天が続いていることから高温乾燥時に多発するハダニ類や高温多湿で発生する炭そ病を栽培ハウスに持ち込まないように適切に農薬散布を行うことを土耕栽培、高設ベンチ栽培ごとに検討しました。

定植の目安となる花芽分化調査は9月4日から夜冷育苗を実施した苗を皮切りに9月中旬まで実施することとし、花芽分化に合わせた定植作業が重要であることを周知しました。

普及センターでは、定植後も現地検討会を開催しながら蔵王地区のいちご栽培をサポートしていきます。

○「南三陸大粒ぶどう協議会(仮称)」設立に向けた説明会が開催されました

令和5年9月14日

気仙沼農業改良普及センター



南三陸町では、生産が増加している生食用ぶどうの高品質化、ブランド化による評価向上や有利販売により、さらに栽培拡大を図るため、協議会の設立に向けて生産者と関係機関で準備委員会を構成しました。令和5年8月30日には、準備委員会主催で「南三陸大粒ぶどう協議会(仮称)」設立に向けた町内ぶどう生産者への説明会が開催され、ぶどう生産者5名が参加しました。説明会では、準備委員会より協議会の目的や事業内容、設立までのスケジュール等について説明が行われました。参加者からはブランド化の方向性や販売方法等について様々な意見が出ましたが、品質の統一化や有利販売の必要性について理解を深めている様子でした。今後は、年内の協議会設

立を目指し、生産者と関係機関が協力して準備を進めていく予定です。

○北浦梨の直売所が開店しました！

～「美里町北浦梨フェア2023」好評開催中！～

令和5年9月14日

美里農業改良普及センター



美里町は県内有数の日本なし産地で、「北浦梨」は大正時代から続く特産品です。

今年の日本なしは、平年と比べて1週間から10日ほど早く発芽や開花するなど生育が早まっていますが、北浦梨の直売所はほぼ平年どおり、8月下旬頃から開店しました。

秋が深まるにつれて「豊水」や「長十郎」、「あきづき」など様々な品種が順次、直売所に並びます。ぜひ、何度も足を運んで食べ比べて、自分の「推し品種」を見つけてみてはいかがでしょうか？

なお、令和5年9月1日(金)から9月30日(土)までは、「美里町北浦梨フェア2023」が開催されています。フェア参加21店舗(美里町内18店舗と大崎市・涌谷町の3店舗)で北浦梨を購入するともらえるスタンプを3つ集めると、美里町の特産品が抽選で当たるスタンプラリーに応募することができます。

詳細は、「美里町北浦梨フェア 2023」ウェブページをご覧ください。

<https://www.town.misato.miyagi.jp/12kanko/2023-0824-0921-7.html>

○利府町の名産品「梨」の出荷・販売が始まりました 令和5年9月14日 仙台農業改良普及センター



利府町では、明治17年から梨の栽培が始まったと言われており、利府といえば、「利府梨」といわれる程、利府の梨は有名です。栽培されている品種は、早生種の「幸水」から始まり、「長十郎」、「二十世紀」や「あきづき」等多くの品種が栽培されています。古い品種である「長十郎」は、他産地が栽培していない品種ですが、根強いファンがいることから、毎年求めるお客様もおられます。収穫は、8月下旬～11月上旬まで行われ、10月1日には梨祭りも開催されます。

今年は開花が平年より2週間近く早くなってしまい、霜の被害も心配されました。また、7月下旬から雨が少なく、梨の肥大が滞るのではと危惧されましたが、特別な病害虫の発生もなく、無事に収穫を迎えることができました。今年は日照時間が平年に比べて多いので、特に甘い梨がなりました。

利府の生産者は、まだまだ残暑の厳しい中での収穫作業を行っていますが、無事に収穫を迎えられ、笑顔でお客さんに梨を販売しております。ぜひ利府の直売所でお買い求めになられてはいかがでしょうか？また、ほとんどの直売所では午前中で売り切れとなる場合が多いので、早めにお出かけくださるようお願いいたします。

○JA 新みやぎ栗っこ地域にてそらまめ栽培講習会が開催されました 令和5年9月15日 栗原農業改良普及センター



令和5年9月8日、JA 新みやぎ栗っこ地域にてそらまめ栽培講習会が市内2か所で行われ、生産者計20名が参加しました。この研修会に普及センターは講師として出席しました。

始めに、(有)兵藤種苗商事の担当者より播種から収穫までの一連の作業について丁寧に解説いただきました。そらまめは開花から莢肥大までに水分を多く必要とするため、収量向上を目指すには適度な灌水が重要であると説明いただきました。

普及センターからは、そらまめで注意すべき病害虫について解説を行いました。特にウイルスを媒介するアブラムシ類の防除のポイントとして、異なる作用機構を持つ殺虫剤を組み合わせたローテーション防除と、アブラムシの住処となりやすいキク科雑草の除草について重点的に説明しました。

参加した生産者からは、前作の栽培を振り返ったうえで病害虫防除や追肥のタイミングについて質問があり、講師が都度対応しました。栗原地域では古くからそらまめ栽培が行われてきましたが、連作障害等の新たな課題もみられるため、普及センターでは引き続き栽培面への支援を行っていきます。

○カーネーションIPM実証の視察が行われました 令和5年9月19日 巨理農業改良普及センター



名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用するなど、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制するIPM（総合的病害虫管理）の実証に取り組んでいます。

令和5年9月11日に国や東北各県の試験研究機関の担当者らによる現地視察（東北農業試験研究推進会議生産環境推進部会病害虫研究会）があり、普及センターも実証農家や農業・園芸総合研究所とともに、現地で実証内容の説明を行いました。

ハダニ類対策の天敵活用、アザミウマ類対策の赤色防虫ネットの設置で得られた結果や、光反射資材のマルチ利用等、今回新たに追加した取組を紹介しました。

取組効果や栽培管理に関する出席者からの質問に対し、害虫防除の効果やコストを含めた総合的な評価の必要性等、実証農家からの回答があり、技術の普及による成果と課題を関係者間で再確認する有意義

な機会になりました。

花き類のIPMの取組はまだ事例が少なく、地域への定着や技術の発展が期待されるものであることから、普及センターでは関係機関と連携して今後も支援を行っていきます。

○目指せ！！園芸導入でパワーアップ！「水田を活用した露地野菜導入セミナー」を開催しました
令和5年9月21日
美里農業改良普及センター



米価下落や米の消費量減少が進んでおり、土地利用型経営体が将来にわたって安定した経営を維持・発展していくため、水田を活用した露地野菜等の高収益作物を導入する取組が増えていきます。美里普及センター管内では水田転作を中心に加工業務向けのばれいしょやたまねぎの生産振興に取り組んでおり、今後さらに需要拡大が見込まれています。

そこで、令和5年8月30日に「水田を活用した露地野菜導入セミナー」を美里町駅東地域交流センターで開催しました。

当日は生産者やJA等の関係者、約40人が参加しました。

研修内容は、県園芸推進課から県における露地園芸の振興方策についての説明をいただき、県農業・園芸総合研究所から水田転作における排水対策及びたまねぎの直播栽培について、また、JA新みやぎみどりの統括営農センターの担当者からさつまいもの生産状況について報告を行いました。その後、大崎市鹿島台のさつまいもほ場の見学を行い、情報交換を行いました。

参加者からは、活用できる補助事業や水稻等と露地野菜の輪作体系についての質問があり、水田を活用した露地野菜生産の関心の高さがうかがえました。

普及センターでは、引き続き、生産者、関係機関と連携して水田転作における露地野菜生産の拡大支援に取り組んでいきます。

○第2回シャインマスカット栽培技術研修会を開催しました
令和5年9月21日
栗原農業改良普及センター



令和5年9月8日（金）に栗原市金成で「第2回シャインマスカット栽培技術研修会」を開催しました。

当日は、シャインマスカットの生産者や今後導入予定の方々、合わせて41人の参加がありました。

始めに、普及センターで作成した「熟期の見極め資料」等に基づき、基本事項について説明し、その後、現地ほ場の園主である田中学さんを講師に、収穫時期の見極めや販売時の出荷形態、鳥獣被害対策等について実体験を交えた講義をしていただきました。

さらに、シャインマスカット、ナガノパープル、竜宝の3品種について、食べ比べを行い、成熟期における果実の状況や食感等を認識していただきました。

参加者からは、「収穫時期の目安について具体的な話が聞かれ大変参考になった。」とか、「実際に食べた果実の糖度を測定することで果実糖度を実感することができた。」との声が聞かれました。

次の研修会は、整枝剪定技術の習得を目的に、12月上旬に開催する予定です。

○抑制トマト現地指導会が開催されました
令和5年9月27日
亶理農業改良普及センター



7月に定植したトマトの収穫が間もなく始まることから、亶理町逢隈地区で5名の生産者が参集し、9月15日に抑制トマトの現地検討会が開催されました。生産者、JAみやぎ亶理、普及センターから、各担当者も参加し、2か所のほ場を巡回し、生育を確認した後に、今後の管理について検討しました。

今作は、定植後の高温の影響により生育がやや遅れ、着果が十分でなかったところもみられ、また、害虫の発生と防除効果について確認をしました。

巡回後の検討会では、今後もしばらくは高温が続くことから、着果管理は当面ホルモン処理を行うこと、処理ステージは、花びらがきちんと開いた状態で

処理することを確認しました。今年の収量安定化に向けて、着果管理と追肥、かん水管理を徹底していけるようお互いに情報交換を行い、生産者らは気持ちを新たにしていました。

普及センターではこれからも関係機関と協力して、トマトの安定生産に向けて支援してまいります。

○仙南地区で、RTKシステムを活用した「たまねぎ直播」実演会を開催！
令和5年9月29日
大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、令和5年9月5日丸森町竹谷地区において、RTKシステムを活用した「たまねぎ直播」実演会を開催しました。会場とした竹谷地区は、令和元年東日本台風の浸水被害からの復興に取り組んでいる地区であり、ほ場の選定や実演に当たっては、丸森町農業創造センター、株式会社アグリジャパン、県農業・園芸総合研究所など多くの関係者から協力をいただきました。

当日は、JAみやぎ仙南たまねぎ部会の生産者のほか、JA、市町担当者ら30人以上の参加がありました。JAみやぎ仙南では、乾燥施設や大型収穫機械を導入するなど、機械化一貫体系の体制を整備し、たまねぎの生産拡大に取り組んでいます。今回の直播栽培は、育苗作業の省力化等を図ることができ、栽培面積拡大に向けて、有効な技術と考えられます。

また、実演は、衛星測位情報により高精度な農作業を可能とするRTKシステムを使って行いました。自動操舵システムを搭載したトラクターを運転するオペレーターは、後方の播種装置の動作をしっかりと確かめながら作業を進めることができました。

普及センターでは、町、JA等の関係機関と連携を図りながら、実証技術の調査や検証等を行い、仙南地域のたまねぎ生産拡大につなげていきたいと考えています。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○JA 加美よつば主催の大豆現地検討会が開催されました

令和5年9月4日
大崎農業改良普及センター



令和5年8月22日(火)、JA加美よつば主催の第2回大豆現地検討会が開催され、生産者33名が参加しました。検討会では、生産者から耕種概要の説明があった後に、大豆の生育や病害虫の発生状況を参加者で確認しました。

普及センターからは、管内6か所に設置している調査ほ場の生育概況及び今後の栽培管理のポイントとして、湿害・干害対策、病害虫防除について説明を行いました。特に今年は高温多照の傾向が続いており、干害のリスクが大きいことから、畦間かん水の実施、暗きよの水甲を閉じる等の対策を行うよう呼びかけました。

普及センターでは引き続き、大豆の安定生産に向けて、支援を行ってまいります。

○大豆の生育調査を行いました

令和5年9月7日
大崎農業改良普及センター



大崎普及センター管内は、約2,000haの農地で大豆栽培が行われており、県内有数の大豆の産地となっています。普及センターでは、生育状況を把握し、農業者への栽培指導に活用することを目的に、管内6か所に生育調査ほを設置し、生育・収量調査等を行っています。

令和5年9月1日(金)には、今年3回目の生育調査を実施しました。今年は生育期間を通して高温多照の期間が長く続いたことから、生育量が平年を上回っているほ場がある一方で、生育量が過剰で蔓化しているほ場も散見されました。また、高温乾燥によりハダニの発生が平年より多く確認されました。

今後は、排水対策の再確認、残草の処理等を行い、11月頃の収穫期を待つこととなります。普及センター

では、引き続き大豆の高品質安定生産に向けて技術支援を行います。

○子実用とうもろこしの収穫作業が始まりました 令和5年9月8日 美里農業改良普及センター



涌谷地域農業再生協議会は、令和4年度から家畜向け配合飼料の主原料である子実用とうもろこしの生産実証に取り組んでいます。

今年は、8月30日から収穫作業が始まりました。気温が高く好天に恵まれたことから、昨年度と比較して増収が期待できます。また、9月には収穫実演会の開催が予定されています。

普及センターでは、子実用とうもろこしの生産など、水田フル活用に向けた取り組みの支援を行います。

○子実用とうもろこし収穫実演会を開催しました 令和5年9月15日 巨理農業改良普及センター



令和5年9月12日、名取市植松の農事組合法人U.M.A.S.I.（以下「法人U」）管理水田ほ場において子実用とうもろこし収穫実演会を開催し、農業者や関係機関等40人が参加しました。開催に当たっては、法人Uと、株式会社キセキ東北宮城支社（以下「キセキ」）の協力をいただきました。

実演会では、当センターから子実用とうもろこしの栽培概要を説明し、法人U大友代表理事から耕種概要を説明いただいた後、収穫作業の実演が行われました。始めに、法人U所有三菱小型汎用コンバイン（リールヘッド式）で収穫し、続いてキセキ汎用コンバイン（コーンヘッダー装着）で行われました。参加者は実際に収穫作業を見ることでそれぞれの機械の特徴などを確認していました。

普及センターでは、今後も主食用米から新たな転換作物の導入に向けた検討を支援していきます。

○飼料作物展示ほ（稲発酵粗飼料用品種）の収量調査を実施しました 令和5年9月19日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年8月15日、気仙沼市内の飼料作物展示ほ（稲発酵粗飼料用品種：リーフスター）の収量調査を実施しました。今年は展示ほ依頼農家の都合で例年に比べ1か月早い収量調査となりました。今年はリーフスターの作付け、同じ品種を作付けした令和2年、令和3年の平均草丈117cmに比べ100cmでしたが、今夏は高温で推移したため1か月早い調査にもかかわらず、穂ばらみ期となっており、10株当たり総生草重が約2kgと令和2年の1.7kgに比べ多くなっていました。8月19日から刈取、テッターで反転乾燥後22日にラップ作業を実施。今後90日後にラップからサンプリングして発酵品質の調査を行う予定としております。

○第1回美里地域農業普及活動検討会の開催 令和5年9月22日 美里農業改良普及センター



令和5年9月1日（金）、普及活動検討委員8人に出席いただき、第1回美里地域農業普及活動検討会を美里農業改良普及センターで開催しました。

はじめに、令和5年度普及指導計画の概要について説明した後、3つのプロジェクト課題について、前半の取り組み状況や今後の活動計画についてスライドで説明しました。

課題 No1 「土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開」では、大崎市田尻の集落営農法人を対象とした、経営管理研修会での決算書からの経営状況の把握による経営計画の見直しや高収益作物の導入支援について説明しました。

課題 No2 「土地利用型法人が取り組む加工業務用になじんの安定生産」では、美里町内の5法人が取り組むになじん栽培について、品種選定や病害虫防除、販路開拓の支援活動を説明しました。

課題 No3 「堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上」では、涌谷町の経営体を対象に小麦の生育中の堆肥散布や追肥方法の改善による収量品質の向上の取組みについて説明しました。

委員からは、「部門別収支の把握や経営計画見直しは持続的な経営展開に必要である。」「露地野菜は天候のリスクは高いが、になじんの産地化を支援してほしい。」「耕畜連携、地域資源を活用した堆肥の利用促進に期待する。」等の意見をいただきました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決を図るため、外部委員の意見や評価を参考にしながら、関係団体と連携して効率的な普及指導活動に取り組んでまいります。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○水稲採種ほ場審査(第二期)を実施しました 令和5年9月5日 大崎農業改良普及センター



水稲種子の第二回目のほ場審査を実施しました。種子審査には「ほ場審査」と「生産物審査」の二つの審査があり、ほ場審査とは、実際に種子生産している現地の水田を一枚一枚、周囲を回りながら生育の状況や異株(異品種や変異株)の有無を確認していきます。病害や雑草の発生、生育の状況等によっては不合格となることもあるので農家も真剣です。

約300haの採種ほ場を計3回審査を行うことから、審査を担当する普及センターにおいても時間と人員を多く必要とするので、県庁の農業技術担当者や古川農業試験場の職員の応援をもらいながら実施しています。

ほ場審査に合格した採種用稲は、適期に収穫・乾燥・調整され、生産された種籾そのものを審査するステップに進みます。この生産物審査に合格し、さらに登録検査機関が実施する農産物検査で種子として合格して初めて「水稲用種子もみ」として出荷されます。種子として供給されるまでには、さらなる審査や検

査が待っているわけです。

○宮城県総合畜産共進会「肉用牛の部」壮行会が開催されました 令和5年9月8日 美里農業改良普及センター



令和5年8月25日(金)に令和5年度宮城県総合畜産共進会への出品に向けたみどりの地区壮行会が、株式会社新みやぎサービスみどりの会館において開催されました。

みどりの地区からは、計11頭の雌牛が出品されます。みどりの和牛繁殖部会 岡部組合長は、挨拶の中で「単品区、群出品区ともに名誉賞を獲得できるように一丸となって頑張りたい。」と述べ、みどりの和牛育種組合 早坂組合長の「がんばろう三唱」で出品者、関係者ともに9月8日から9日の本番に向けて、さらに気合いを入れている様子でした。

○第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました 令和5年9月19日 登米農業改良普及センター



普及センターでは普及活動の改善を図ることを目的に、課題設定や計画、活動状況等について外部委員から意見を求める普及活動検討会を開催しており、令和5年9月1日(金)に、今年度第1回目の検討会を開催しました。

今回は、普及活動事例として、りんごジョイント栽培ほ場を視察した後に、令和5年度普及指導計画と2つのプロジェクト課題活動について検討いただきました。

りんごジョイント栽培については、普及センターから栽培方法の利点や生産実績を説明し、生産者夫妻からは導入の経緯や栽培管理の苦労などを話していただきました。管内でも目新しい取り組みだったこともあり、各委員からは「新たな挑戦の成果だ。感動的だ」と高評価でした。

2つのプロジェクト課題のうち、課題No.1の「農地整備を契機とした地域営農体制の構築」については、「法人設立に向けた方向性が出てきているので継

続した支援が必要」との意見をいただきました。課題 No. 3 の「グリーンな栽培体系の実践による持続可能な稲作経営の実現」については、「脱プラスチックだけでなく、中干し期間延長によるメタン削減効果の確認や、水田環境における生物多様性への影響も検討して欲しい」との意見をいただきました。

普及センターでは、今回いただいた意見を参考に、効果的な普及活動の推進に努めることとしています。

○登米市新米試食会が開催されました 令和5年9月28日 登米農業改良普及センター



登米市農業振興協議会主催の新米試食会が9月22日に開催され、流通業者やホテル・旅館の関係者、登米総合産業高等学校の農業科の生徒など約80人が、市内で生産された環境保全米「ひとめぼれ」「ササニシキ」「だて正夢」の新米を食べ比べました。

登米市では2003年から環境保全米（農薬や化学肥料をできるだけ少なくして栽培したお米で、環境そして人にも優しい安心・安全なお米）に取り組んでおり、今年の新米を試食した参加者からは、「猛暑の影響が心配されたが、甘みと香りがあった大変おいしかった」といった感想が聞かれました。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「蔵の華」刈取適期確認研修会を開催しました 令和5年9月1日 気仙沼農業改良普及センター



令和5年8月28日、気仙沼市廿一地区で、酒造好適米「蔵の華」を栽培する「清流『蔵の華』廿一会」（会長：熊谷公兵氏）を対象に現地研修会を開催しました。会員やその家族計10名が参加し、全会員のほ場を巡回して刈取適期の目安を確認しました。

今年は高温下で水稻の生育・収量への影響も懸念されましたが、丁寧な水管理や防除により、順調に穂が色づき、成熟が進んでいます。増収や1等米比率の向上に向け、期待も高まる中、高温により管内どの品種も出穂・刈取適期は早まっているため、刈り遅れによる品質低下を防ぐため、適期に応じた落水や機械準備を行うことや、コンバインによる収穫時の事故防止や熱中症対策について確認しました。

収穫間近のほ場を確認しながら、刈取日程の調整を行ったり、今年の生育を踏まえた来年の改善点について意見交換を行ったりするなど、会員同士で収穫や来年の作付けに向け、気を引き締めていました。

秋には、収穫イベントも予定され、地元の酒蔵では当地域の「蔵の華」を使った日本酒が醸される予定です。お見かけの際は、ぜひ御賞味ください。

○地域計画に向けた地区協議が始まりました 令和5年9月4日 亶理農業改良普及センター



亶理町及び岩沼市において、認定農業者、農業委員等が参加し、地域計画策定に向けた地区協議が始まりました。亶理町では8月21日から29日にかけて4地区で、岩沼市では8月31日に北部4地区合同の地区協議が開催されました。

協議の前段として普及センターから、市町の担い手の状況（農地集積や認定農業者の年代別割合等）を説明し、「10年後の農地はどうなる」について問題提起を行いました。その後、市町から地域計画策定の具体的な進め方を説明し、参加者で地域の課題等について協議しました。

参加者からは、「地域に後継者がいない」「誰が受託するにしても農地を荒らさないようにしておくべきだ」「小さい農地はどうするのか」などの課題の提示

や意見がありました。

今後、アンケート調査の結果や担い手の意向等をもとに目標地図の素案を作成し、引き続き協議していく予定です。普及センターでは、市町の地域計画策定について全面的にサポートしていきます。

○古試参観デーに参加しました
令和5年9月20日
大崎農業改良普及センター



令和5年9月1日、4年ぶりに古川試験場・畜産試験場の参観デーが開催され、大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会も久しぶりに参加しました。

農産加工を行うグループ員は、お弁当のほかおこわやおにぎり、惣菜を販売し、産直活動を行うグループ員は、お茶などの飲み物を販売しました。また、酪農を営むグループ員は、牛乳の消費拡大のため、出荷先の協力を得て牛乳の無償配布をするなど、それぞれ特徴のある活動を紹介する場となりました。

開会式後は、お弁当やお惣菜を購入するお客様が次々にブースを訪れ、グループ員と交流する様子が見られました。

普及センターでは、これからも農村女性の活動を支援してまいります。

○第1回気仙沼農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
令和5年9月26日
気仙沼農業改良普及センター



普及センターでは課題の進捗状況や課題設定、計画等について、外部からも検討・評価してもらうため、外部の有識者を普及活動検討委員として委嘱し、年2回普及活動検討会を開催しています。今年度の第1回目検討会を令和5年8月31日（木）に宮城県気仙沼合同庁舎で開催いたしました。

出席した活動検討委員5名に対して、本年度の普及計画の概要や最重点として取り組むプロジェクト課題の進捗状況を説明し、検討いただきました。

当普及センターでは、本年度のプロジェクト課題として、課題 No. 1「担い手を核とした地域農業の継続・発展」、課題 No. 2「市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展」、課題 No. 3「四季成りいちごの生産体制確立による収量確保」の3課題に取り組んでいます。

委員からは様々な意見をいただきましたが、特に課題 No. 2 に対し生産者目線で労働生産性が向上する取り組みであると高評価をいただきました。

普及センターでは、今回いただいた意見を参考に、効果的な普及活動の推進に努めていきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○グリーンな栽培体系への転換サポート現地検討会を開催しました！
令和5年9月5日
石巻農業改良普及センター

令和5年8月29日に当普及センターとJAいしのまきで構成する協議会が主催する「グリーンな栽培体系への転換サポート現地検討会」を開催しました。本検討会には実証試験ほ場を設置している農業法人をはじめ、JA いしのまき、宮城県農業共済組合、石巻市北方土地改良区、石巻市、東松島市、当普及センターから合計15人が参加しました。



この取り組みは、令和3年5月に国が策定した「みどりの食料システム戦略」に基づき、石巻管内で環境に優しい持続可能な農業生産の実現を推進するために実施しています。本実証試験では、水稻乾田直播栽培において堆肥を用いた化学肥料の低減の可能性について検証しており、検討会では生育調査データを参照しながら、ほ場で生育状況を確認しました。堆肥施用による減肥区は対照区と同等以上の生育を示しており、化学肥料削減の効果が期待されました。9月上旬には収穫を予定しており、収量や品質などのより詳細な調査を進めていきます。

当普及センターはこれからも、環境にやさしく持続的で安定した農作物の生産を支援していきます。

③大規模自然災害等からの復旧・復興

○令和元年東日本台風の被災地区で、集落営農法人が設立！

令和5年9月29日

大河原農業改良普及センター



令和5年9月10日丸森町羽生地区において、地区の担い手らが発起人となって、集落営農組織「農事組合法人 羽生ファームまるもり」の設立総会が行われました。

丸森町羽生地区は、令和元年東日本台風の浸水被害から、令和3年に営農を再開することができたものの担い手の減少や高齢化が進んでいる現状から、若い世代に継承しやすい営農環境を整えていく必要があると考え、農地整備事業の実施希望と併せて、集落営農法人の設立に向けた話し合いが進められました。

法人設立後は、農地中間管理事業を活用して、新法人に農地を集積・集約化し、園芸作物などの高収益作物の導入も検討しながら、効率的な営農の実践を目指していきます。

普及センターでは、設立法人の円滑な組織運営と安定経営が行われるよう、関係機関等と連携して支援を継続してまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.200

発行日:2023年10月12日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp